

「一果入魂」こだわりを持った生産管理に努めよう

1 表層根づくり

○有機物等の投入

寒波により樹体が弱っていますので、樹体回復を図るため、樹冠下に堆肥、ピートモス等の施用又は客土を行い細根の増加をはかりましょう。

○石灰資材の投入

肥料の投入・降雨等で徐々に苦土、石灰分が流亡して酸性化が進み肥料の吸収が悪くなります。苦土石灰、サンライム、マリンカル等を施用して、苦土、石灰の補給と酸性土壌の改善をおこないましょう。また、苦土欠乏症が出ている園は、水マグを10aあたり40kg施用しましょう。

2 密植園の間伐、園周辺の雑木の整理

密植の弊害として、隔年結果の助長、品質の低下、着色遅れ等がおきます。さらに作業性・防除効率は低下し、農薬散布時には作業者への農薬飛散も多くなります。樹と樹の枝先が重なり合う園では間伐をおこない、独立樹にしましょう。また、園周辺の雑木の整理を実施して園の日照条件を改善しましょう。

3 春草の除草

地温の上昇にともない春草の生育が活発になります。草と樹の養分競合を防ぐため早めに春草の除草をおこないましょう。

使用薬剤	適用雑草名	10aあたり使用量	
		薬量	希釈水量
ラウンドアップマックスロード（吸収移行型）	1年生雑草	200ml～500ml	通常散布 50～100ℓ 少量散布 5ℓ、25～50ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml	
サンフーロン液剤（吸収移行型）	1年生雑草	250ml～500ml	通常散布 50～100ℓ 少量散布 25～50ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml	
バスタ液剤（接触型）	1年生雑草	300ml～500ml	100～150ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml	

※少量散布（5ℓ/10a）は専用のラウンドノズルULV5を、少量散布（25～50ℓ/10a）はラウンドノズルLV25を使用して散布。

4 苗木の植付準備

苗木の植付を予定している園では、植付前に溝上げ、畝立等を実施し排水性の良い園に整備しましょう。植栽位置を決めた後、植穴を掘った土に堆肥30kg、ヨウリン300g、サンライム2kgを施用して、よく混和して植穴を埋め戻しておきましょう。

※堆肥等の基準量は深さ50cm、直径60cm程度の植穴を基準としています。

5 貯蔵管理

予措・貯蔵条件の目安（坪あたりの入庫量は800～1,000kg）

品種	予措程度 %	貯蔵温度 °C	貯蔵湿度 %	ポイント
伊予柑	4～5	5～8	80～85	出荷時期に応じた区分貯蔵
甘夏	4～5		85～90	裸果貯蔵
			70～80	ポリ貯蔵
はっさく	しない		90～95	裸果貯蔵
			70～80	ポリ貯蔵
ポンカン	5～7		75～80	高温、高湿で予措戻り、す上がり発生
不知火	3～5		90	過乾燥に注意。新聞、ポリ個装
清見	しない		90	高温、乾燥でこはん症が発生
はるみ	2～3		75～80	軽めの予措

落葉果樹

春肥の施用

品種	肥料銘柄	施用時期	施用量（10a当り）
キウイフルーツ	柑橘有機配合1号 (8・6・4)	2月上旬～2月下旬	4袋
梅		2月下旬～3月上旬	2袋
西条柿		3月上旬	2袋

野菜

バレイショの定植準備

3月中旬以降定植が始まりますので準備をしましょう。

時期：定植1～2週間前

肥料：有機入化成A801号

施用量：1㎡当り150g

* 十分に深耕しましょう。

種芋の準備

種芋は2～4つ切にし、30～40g程度にしましょう。

タマネギの追肥

時期：2月中旬～2月下旬

肥料：燐硝安加里S604

施用量：1㎡当り10g

* 2月下旬から急速に成長するため土寄せをおこない倒伏防止を行いましょう

ソラマメの芽かき

成長するにしたがって、株元から何本もの芽が伸びてくるので、徒長した枝や幼少の枝を分岐点より切り取り、太くて良い芽を4～5本残しましょう。

水稻

土作り

年末、年始に行うことができなかつた圃場は、今からでもミネラルG又はケイカルを10a当り200kg施用し、15cm以上の深さで耕運しましょう。